

2024年度 メリー★ポピンズ 稲城ルーム本園分園 保育園 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2024年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

法人の子育て目標である「センス・オブ・ワンダー」、「人対人コミュニケーション」を実践する保育、そして運営本部 MISSION を達成することを意識して取り組んできた。

スタッフのにんげん力向上のため、スタッフ発信の園内研修、各種プロジェクト活動を行ってきた。

「生活力の体得」について、年長児を中心に係活動を充実、サークルタイムの導入など行ってきた。年長児主体の保育が確立したことで、異年齢保育も充実してきている。

「10の姿の体得」について、就学に向けて小学校の見学や、身の回りのことを自分でする取り組みを保育の中で行った。

「子どもが自らいつでも経験の選択をすることができる物的環境」について、子どもたちの成長に合わせた環境の見直しを定期的に行ってきた。いつでも制作、表現活動を行うことができる環境にはまだ到達できていない。

子ども自ら思考し、解決する力を養うため、喧嘩やトラブルがあっても無理に止めることはせず、葛藤や我慢をする機会も意図的に作ってきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育の実践
	実践結果	子どもの発達や変化を把握することを意識し、ケース会議を密に行った。園舎、園外のハザードマップの定期的な更新と全スタッフの理解を深めた。
	次年度方向性	異年齢、インクルーシブ保育のさらなる促進。
2	計画・ねらい	本園分園の交流を密に図る。
	実践結果	2歳児をメインに、本園分園の子ども同士の交流の機会や、分園の子どもが本園で遊ぶ機会を増やし、分園から本園への意向がスムーズに進むよう取り組んだ。
	次年度方向性	本園分園の交流はそのままに、本園の幼児が分園に行く機会を作り、分園での異年齢保育を促進していく。
3	計画・ねらい	日課・基本保育活動の充実を図る。
	実践結果	デイリーの見直しをし、朝の時間を有効活用して日課に取り組むことができたようになった。 畑に触れる機会は少ないが、日課の中で野菜の皮むきを取り入れ、食材に

		触れる機会を増やした。
	次年度方向性	リズム体操、雑巾がけ、畑等、内容の充実を図っていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心に寄り添った対応
	実践結果	・保護者対応では、1日の様子を伝えることはもちろんのこと、保護者の話を傾聴する姿勢を忘れず、何気ない表情や会話から変化を読み取り、適切なコミュニケーションを図った。
	次年度方向性	次年度も3分間対応、子どもの様子を映した動画の設置を継続していく。
2	計画・ねらい	保育参加・個人面談の積極的な実施
	実践結果	保護者の希望に加え、園からも積極的に保護者参加を促していき、子どもの状況や課題についてともに理解し、家庭と園とが同じ目線で子育てできるように取り組んだ。
	次年度方向性	保育参加を増やし、保護者との密なコミュニケーションを図る。
3	計画・ねらい	誰がいつ見ても気持ちの良い施設
	実践結果	・来訪者、保護者の目線で施設の整備をした。
	次年度方向性	・必要物品は定位置がある状態にし、必要なものだけが設置されている状態を保つことを徹底していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐ行事活動の充実
	実践結果	自然食堂や寺親屋に加え、マジックショーなどのイベントも取り入れた。
	次年度方向性	ちきんえっぐ活動に毎回3組の参加を目指し、来訪者を獲得する。
2	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践結果	月1回、南山広場で実施。公園への地域の方の来訪が少なく、実績に繋がらなかった。
	次年度方向性	青空保育の場所を変更し、毎月来訪者が望めるようにしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	全スタッフの MBO 目標設定から達成までマネジメントする。
	実践結果	・スタッフの特性、個性、長所を活かせる目標設定をスタッフ主体で導き出し設定した。進捗状況を確認しながら、課題があれば原因要因を一緒に考え、目標達成できるようにした。 ・良好な関係づくりのため、スタッフ面談を定期的に実施した。
	次年度方向性	リーダー層を巻き込みながら全スタッフの MBO 目標達成を目指していく。
2	計画・ねらい	スタッフによる園内研修の実施
	実践結果	・園会議内でスタッフが講師となり、様々なテーマで研修やロールプレイ等を実施し、学びを深めた。
	次年度方向性	プロジェクト、グループで研修やロールプレイを実施していく。
3	計画・ねらい	系列園やつむぎとの交換研修の実施
	実践結果	他園での研修の機会を作ったが、他園への研修がリーダー層のみになってしまった。
	次年度方向性	全スタッフがねらいを持ち、他園で研修する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	継続してコンポストに取り組んでいく。プランターの土づくりをする。
	実践結果	・子どもと一緒にコンポストを作り、自分たちが育てている野菜の土づくりに繋がることや、身近にできるごみを減らす活動を意識して取り組んだ。
	次年度方向性	通年でコンポストに取り組む。
2	計画・ねらい	「作る」と「食べる」がにつながる食育の推進
	実践結果	・残菜を減らす取り組みとして、調理や栽培にかかわる取り組みを大切にする。食材の生産や調達、調理に触れ、作る人の気持ちも大切にする。
	次年度方向性	通年で畑に野菜がある状態、いつでもその場で食べる経験ができる状態を目指す。

〈6〉プロジェクトを立ち上げ、保育運営の向上を目指す

1	計画・ねらい	SDGs・食育プロジェクトの立ち上げ
---	--------	--------------------

	実践結果	食の循環に関してはコンポストなど積極的に実施できた。SDGsに関する具体的な取り組み実践ができなかった。
	次年度方向性	食育、畑プロジェクトに絞り、通年で取り組んでいく。
2	計画・ねらい	内部監査・環境プロジェクトの立ち上げ
	実践結果	運営マニュアルに沿った保育ができるようプロジェクトを上げて毎月計画的に取り組んだ。また、園内や敷地内の環境についてもリーダーを中心に会議を行い、子どもの姿に合った環境を整えた。
	次年度方向性	内部監査については引き続きリーダー中心に取り組む。環境は別プロジェクトを立ち上げ、本園分園双方の環境設定に注力していく。

〈7〉スタッフのにんげん力の向上

1	計画・ねらい	リーダー層を中心に全スタッフが適切なタスク管理を行い、組織マネジメント力を向上していく。
	実践結果	毎月の園会議でスタッフのタスクを洗い出し、リーダー中心に保育時間の中で指導準備の時間を確保した。
	次年度方向性	個々のタスクの進捗を共有し、有効に時間を使えるようマネジメントしていく。
2	計画・ねらい	各種会議の充実
	実践結果	報告するだけの会議ではなく、園を良くするためのディスカッションが遂行される会議を目指した。
	次年度方向性	充実した内容の会議かつ、時間を有効に使って時間内に簡潔する会議を目指す。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

本園月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	19人	36人	36人	89人	72人	84人	336人
年度後半： 10~3月	36人	36人	36人	90人	72人	84人	354人

分園月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
年度前半： 4～9月	29人	60人	57人	146人
年度後半： 10～3月	36人	60人	60人	156人

本園延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	57人	53人	48人	86人	46人	70人	54人	74人	76人	45人	71人	80人	760人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	4人	0人	6人

（解説）3月は見込み数

分園延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	43人	77人	77人	72人	48人	56人	62人	49人	50人	43人	44人	50人	671人
うち0 歳児	0人	0人	0人	1人	0人	1人	4人	0人	1人	1人	3人	0人	11人

（解説）3月は見込み数

本園一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
うち0 歳児	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人

（解説）3月は見込み数

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	4人	産休	2人
パート スタッフ	保育士	10人	事務	1人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・スタッフによる園内研修等
給食運営会議	月1回	乳幼児の喫食状況を把握、食育の目標について 食育活動の周知、献立の振り返り等
事故防止委員会	月1回	自園、他園で起きた事故やインシデントの周知、どうすれば防 げるか対応策、具体的行動について等
ケース会議	月1回	要支援児の姿、個別支援計画の内容、振り返り等
クラス会議	週1回	子どもの姿、保育計画、振り返り、本園分園合同クラス会議等
リーダー会議	月1回	本部からの情報提供、園運営に関すること

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長

食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	児童健康管理、感染症予防対策、予防接種状況の把握と啓蒙 月毎の保健計画の実施、保健に関する書類作成等
安全対策係	設備点検、人権チェック、事故記録、インシデント、ヒヤリハット 記録、分析管理、衛生推進者の職務遂行等
防火管理者	消防計画の作成と届け出、自主検査チェック（日常）避難、消火、 通報訓練の実施管理、防災対策、自衛消防隊の編成等
食品衛生管理係	衛生管理点検表、職員細菌検査実施、食品衛生上の管理等
アルバム係	毎月の写真販売の確認（ぶれた写真、同じ写真の消去、販売促進 等）
絵本係	絵本の入れ替え、管理、おすすめ絵本紹介等

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターとの交流計画の作成、連絡、実施等

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育者と信頼関係を築き、安心できる環境の中で食事、睡眠などの 生活リズムを整え、ゆったりと落ち着いて過ごす。 ・身近な人と親しみ、関わり合いを深める中で、人と関わる心地良さ
------	--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに親しみ、見る、触れる、探索するなど身近な環境に自分から関わろうとする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自ら体を動かすことを楽しみ、様々な動きをしてみようとする。 ・身近な環境に親しみ、触れ合う中で様々なものに興味関心をもつ。 ・様々な感覚を経験し味わいながら、感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を身に付け、喜びながら意欲的に生活する。 ・異年齢で生活をする中で思いやりの心、協力し合う心を養うと共に達成感を知る。 ・身近な人と親しみ、関わりを深めるとともに工夫したり協力したりする楽しさを味わい、信頼感が育つ。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で、子ども自ら関わったり発見したり考えたり、扱ったりする中で様々な事象へと興味関心が広がる。 ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わい、人と伝え合う喜びを感じる。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	6月と11月に実施予定

〈2〉計画した年間行事の振返り

- ・2025年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に囲まれ楽しく食べる環境を整えることで、人と共に食べる楽しさを感じる。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・手にとって食べられる食材を提供し「自分で食べたい」という意欲を養うことができるよう働きかけをした。 ・柔らかい食材だけでなく、歯ごたえのある食材も提供した。 ・なるべく薄味で添加物の少ない食材を提供することで、それぞれの食材

		のもつ自然の味や食感を知り、食材の「美味しさ」を実感できるようにした。
	次年度方向性	「食べられるものを増やす」方針のもと引き続き取り組んでいく。
2	計画・ねらい	・ 種植えから収穫を体験、クッキングなどの調理体験をしながら、その過程を理解することで、食材に興味をもち、自然の有難さ、作る人の気持ちを感じ、食べ物を大切にする気持ちを育む。
	実践結果	・ 畑活動、調理体験、商店街ツアーなどを通して五感を使い食に興味関心が持てるようにした。
	次年度方向性	畑活動に注力し、その場で収穫した野菜をその場で食べる経験を増やす。
3	計画・ねらい	・ 園全体で取り組む食育にしていける。
	実践結果	・ 保育計画に取り込み、行事や調理のことだけではない、保育の一環としての食育の推進を図った。クッキングには保護者にも参加してもらい、交流を深めながらともに食育をした。
	次年度方向性	保護者参加枠を増やし、活動を広げる。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月14日／11月8日に実施
歯科検診	6月17日、24日に保育室にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月に手洗い指導を実施 ② 11月に手洗い指導を実施 ③ 随時、歯磨き指導を実施
流行した感染症	保健所へ報告した感染症は無し
発作・痙攣等の対応	発作、痙攣等の対応なし

エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に本園保育室にてエピペン研修を全スタッフ名30名が新たに受講し習得済み
その他保健に関する取組	感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月14日、11月8日 歯科健診 各年1回/6月17日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月18日、10月17日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	プロジェクトを立ち上げ、リーダー中心に環境整備をしていく。
	実践結果	内部監査プロジェクト業務に環境整備を含めて取り組んだ。幼児、乳児、分園リーダーが中心となり、毎月環境の振り返り、必要に応じて環境を変更した。 園外で使用する遊具の点検をし、補充した。
	次年度方向性	継続して取り組み、より洗練した内容としていく。
2	計画・ねらい	本園：子どもの実態に合わせた環境の見直しをしていく。
	実践結果	期毎に適宜必要に応じて環境の見直しをした。
	次年度方向性	環境プロジェクトを立ち上げ、計画的に取り組んでいく。
3	計画・ねらい	分園：玩具、教材の点検を徹底し、すぐに使えるように整理整頓していく。
	実践結果	玩具、教材の一覧表を用いて点検を実施。必要な玩具を適宜見直した。
	次年度方向性	古い玩具を精査し、環境を整えていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	コート掛け（4）	玄関	毎日	異常なし
2	消火器カバー（2）	玄関、テラス入口	月1回	異常なし
3	バケツ棚	乳児トイレ	月1回	異常なし
4	避難はしごカバー	エントランス	月1回	異常なし
5	押し入れ棚	押し入れ	月1回	異常なし

	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	Ｌ字パーテーション	保育室	毎日	異常なし
2	本棚	保育室	毎日	異常なし
3	コの字棚	事務所	月1回	異常なし
4	ままごと台	保育室	毎日	異常なし
5	コート掛け	玄関	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	過去の事例や予測される事故には職員全員周知の上、事故に発展することがないように注意喚起した。必要以上に危険回避をすることは子どもの「乗り越える力」「生きる力」を損なうことにもなりかねないので、職員全員の総意のもと意識の統一を図った。
2	実践結果	日ごろより防犯に対する意識を高めるために、毎月避難訓練を実施・シミュレーションを行った。
3	実践結果	事故・怪我においては心身共に苦痛を被った子どもと保護者の気持ちに誠意を持って応えることが重要である。どんな小さな怪我でも保護者に伝え忘れないようにした。また、前日のどんな小さな怪我（発熱なども含む）でも伝達することにより、翌日の担当保育者が保護者及び子どもに言葉をかけ、状況を把握するようにした。
4	実践結果	救命士資格を有する職員集団のため、心肺蘇生、AEDの使用方法など、吐瀉の場合にも行動できるように訓練した。
5	実践結果	防犯（不審者）に対する訓練は1年で2回実施。更に日々の生活の中で常に意識することが重要である為、散歩時における対応や園内における対応の仕方など会議などで都度意識喚起をした。
6	実践結果	園外保育におけるリスクマネジメント研修を実施した。
7	実践結果	園内保育におけるリスクマネジメント研修を実施した。
8	実践結果	水辺のリスクマネジメント研修を実施した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

小中高生を夏休みに職業体験・ボランティアで受け入れた。実習生は学校より依頼のあった学生を受け入れた。両方とも受け入れることによって、スタッフの学びにつながった。来年度も積極的に受け入れていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月13～26日	日本児童専門学校	1人	部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
----	-----	----

7月2～4日	稲城市立第二中学校	5人
8月1～2日	駒沢学園女子高等学校	1人
8月23日	稲城第六中学校	2人
8月27日	広尾学園高等学校	1人
9月3～5日	稲城第一中学校	6人
11月7日	稲城第三中学校	5人
11月26～28日	稲城第三中学校	5人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

本園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	18日 14名	16日 14名	20日 18名	18日 19名	15日 13名	19日 15名	17日 16名	21日 12名	19日 15名	23日 16名	21日 16名	2日 16名
園内研修	18日 14名	16日 14名	20日 18名	18日 19名	15日 13名	19日 15名	17日 16名	21日 12名	19日 15名	23日 16名	21日 16名	19日 16名

分園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	18日 3名	16日 5名	20日 6名	18日 3名	15日 4名	19日 3名	17日 1名	21日 3名	19日 2名	23日 2名	21日 7名	2日 7名
園内研修	18日 3名	16日 5名	20日 6名	18日 3名	15日 4名	19日 3名	17日 1名	21日 3名	19日 2名	23日 2名	21日 7名	19日 7名

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
--	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 2名	15日 2名	27日 2名	18日 2名	22日 2名	19日 2名	17日 2名	21日 2名	19日 2名	16日 2名	20日 2名	21日 2名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

「様々な世代の人や文化に触れ、人と関わる機会を大切にしていく。」

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 南山広場(仮) 参加延べ人数: 10名
商店街ツアー	週1回 主な行き先: 稲城第一図書館、稲城消防署、ルパ、稲城駅前郵便局、稲城駅等
世代間交流	毎月2週目にツクイにて交流を実施
異年齢交流	2月17日に南山小学校にて学校探検を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

- ・「5歳児と小学校1年生との年間連携計画および報告書」を作成 ※別紙参照
- ・アプローチカリキュラムの作成
- ・保育所保育要録の送付

・保育園から小学校への就学を円滑に進めるために、年長児が小学校へ行く機会を設け、特に小学校1年生との子ども同士の交流の場を設けた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月15日	南山小 1, 2年生	14名	音楽学習発表会見学	子ども間交流
12月9日	南山小学校 演劇クラブ	18名	演劇披露（稲城ルーム）	子ども間交流
1月27日	南山小学校 ダンスクラブ	33名	ダンス披露（稲城ルーム）	子ども間交流
2月17日	南山小学校 1年4組	14名	授業参観	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画は9名、生活習慣、感覚機能、言葉、人とのコミュニケーションなどの項目で計画を作成し、評価を記録した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：月5～6名

「気になる行動」「好ましい行動」「今後の援助」についてここに話し合い、議事録を全スタッフで共有した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

保護者の了承を得た上で、行政の機関と連携し、進学予定の小学校とも情報を共有していく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6名	6名	40名	24名	46名	16名	68名	18名	10名	12名	0名	0名	246名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：0名												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	6名	4名	10名	0名	0名	0名	4名	4名	0名	0名	30名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	0名	0名	4名	4名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	14名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：南山広場(仮)にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	4名	2名	2名	0名	0名	10名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年7月29日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：園長、主任、保育士、栄養士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：本園100% 分園100%

（省察）

本園

希望者には個別面談を積極的に実施し、子どもの様子について保護者とコミュニケーションがとれている。

保護者対応について、玄関に PC を設置し、その日の動画を流すことで待った気がしない工夫ができている。

分園

希望者には個別面談を積極的に実施し、子どもの様子について保護者とコミュニケーションがとれている。

保護者対応について、玄関に PC を設置し、その日の動画を流すことで待った気がしない工夫ができている。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

以上

作成日：2025年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ稲城ルーム 施設長 泉 海翔